

病院情報



日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院

■病床数	852床
■常勤医師数	296名
■指導医数	127名
■臨床研修医数	41名
※2022年4月現在	
■外来患者数	1,401.2人
■入院患者数	672.3人
■救急外来患者数	39.1人/日
■救急車搬送件数	20.6件/日
※2021年4月～2022年3月現在	

臨床研修理念・基本方針

医療に必要不可欠な知識や技術など基本的な診療能力を習得するとともに、診療に際し患者及び医療スタッフと良好な関係を構築できる人格を涵養し、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る医師としての社会的役割を理解し実践できる。

臨床研修の目標

臨床に携わる全ての医師が、初期診療において必要な診断、治療上の基本的知識、技能を習得するとともに、望ましい医師としての態度を身につけることを目的とする。

臨床研修一般目標

- 各領域にわたる基本的な診療(プライマリケア)能力を身につける。
- 頻度の高い疾病や外傷の診断と治療ができる。
- 救急の初期診療を習得する。
- 患者およびその家族との信頼関係を確立できる。
- チーム医療の必要性を理解し、実践できる。
- 在宅医療などの社会医療サービスとの連携をはかり、地域医療を実践できる。
- 赤十字病院の医師として災害時における医療の提供について学ぶ。



- | | |
|------------------|--------------------------|
| 小児科プログラム | ●小児科疾患の各専門分野の診断および治療を知る。 |
| | ●患児のみならずその保護者との信頼関係も築く。 |
| 産婦人科プログラム | ●産婦人科の各専門分野の診断および治療を知る。 |
| 地域医療プログラム | ●医師少数区域における医療提供体制を学ぶ。 |
- (令和5年度新設)

病院見学のご案内

80有余年の歴史を持つ日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院の特徴は「専門科の垣根を越えた医療を実践するシステム」と「職種を越えたチームワークの良さ」です。是非、その活気あふれる医療現場を体感しに来てください。

見学可能診療科

・腎臓内科	・消化器内科	・呼吸器外科	・泌尿器科	・病理部
・内分泌内科	・小児科	・小児外科	・女性泌尿器科	・救急部
・血液内科	・一般・消化器外科	・整形外科	・産婦人科	・麻酔科
・脳神経内科	・乳腺外科	・皮膚科	・眼科	・放射線科
・循環器内科	・血管外科	・脳神経外科	・耳鼻咽喉科	
・呼吸器内科	・心臓血管外科	・形成外科	・歯科口腔外科	

注意事項

- 1 見学申込は必ず希望日の3週間前までにお願いします。
- 2 1日につき1診療科の見学プランを準備しています。
- 3 夜間は原則として見学はできませんが、相談に応じます。
- 4 当院には見学者用の駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
- 5 病院見学の評価の一部を初期臨床研修医の選考に活用しています。当院での臨床研修を希望する方は、必ず見学にお越しください。



お問い合わせ先(教育研修管理課)
**日本赤十字社愛知医療センター
 名古屋第一病院**
 Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital
<http://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/>
 TEL:052-481-5111(代表)(内線54145)
 kenshu-kanri@nagoya-1st.jrc.or.jp

見学はホームページの
 申込フォームから
 お申し込みください。



https://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/recruit/schedule_tour/entry_tour/

なかわらにせき 病院見学 検索



@名古屋第一病院 研修管理委員会



@264fjxz



@nagoya1_jrc



日本赤十字社愛知医療センター
 名古屋第一病院
 Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital



臨床研修医募集





2021年
名古屋大学卒
長谷川 智哉

自主性を発揮できる環境で、 幅広い知識を獲得。

当院の研修の魅力は、興味のある診療科に必ず行けることや、自主性ややる気を発揮できる環境が整っていることだと感じます。一般プログラムでは、1~4週間かけて各科をローテートし、市中病院ならではのCommon Diseaseから、3次救急の重症疾患、各科の専門疾患を学びます。また、病棟管理のほか、内科初診、手術や処置、専門疾患の救急対応など幅広い知識を獲得するチャンスがあります。外科系ローテートでは手術執刀している同期も多いですし、私も腰椎穿刺、CV確保などの多くの手技や、興味のある疾患を多く経験させていただいています。



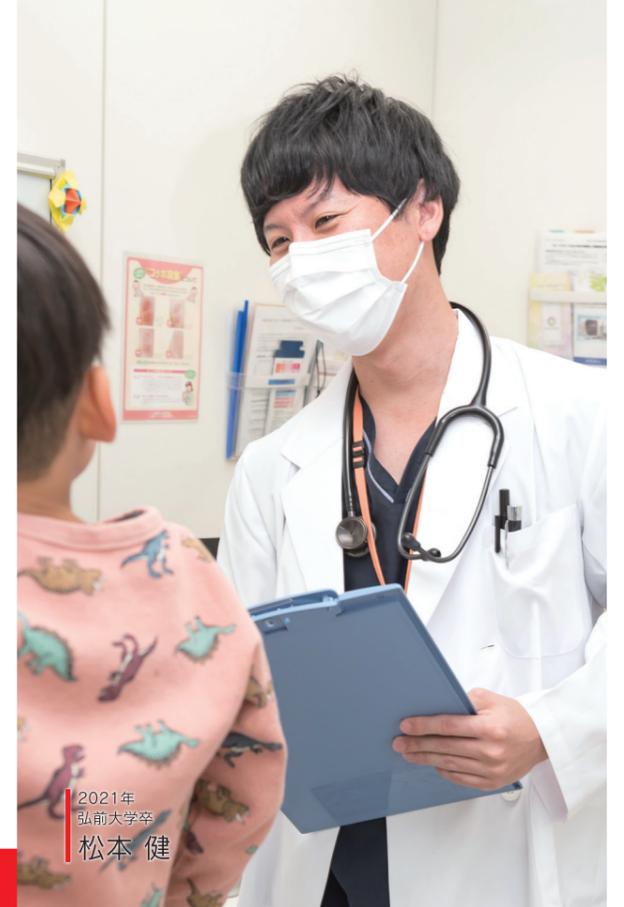
一般プログラム



専門性の高い疾患を経験し、 頼れる医師へ。

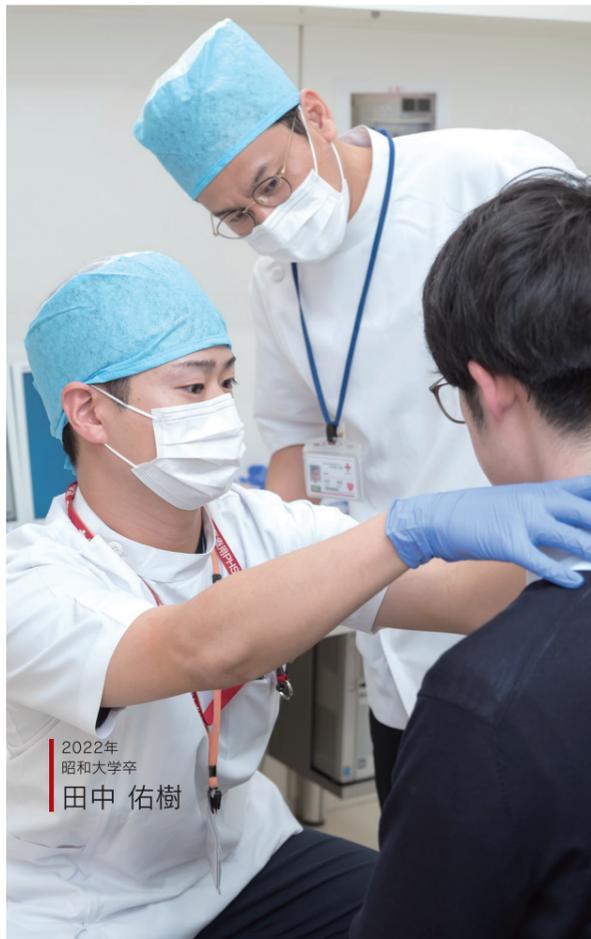
小児科プログラムでは、内分泌やアレルギー、神経、循環器などあらゆる分野の医師に指導していただける恵まれた環境が整っています。1年目は他プログラムと同様に一般グループには3週間、血液グループには1週間の時間をかけて小児科をまわり、2年目で一般小児科、血液腫瘍科、新生児科を1ヶ月ずつ学びます。時間外の外来診療を担当したり、他院では症例の少ない血液疾患や治療を必要とする新生児を担当することで、今後の診療に生かせる現場レベルの知識が身についたと感じています。

小児科プログラム



2021年
弘前大学卒
松本 健

Inter view 叶えたい未来を切り開き、自分を成長させる。



2022年
昭和大学卒
田中 佑樹

歯科プログラム

隣接医学も併せて学べる 充実のプログラム。

歯科プログラムでは、腫瘍、炎症、外傷など多くの口腔外科疾患を経験することができます。また、口腔外科だけでなく隣接医学のローテートも組まれており、医科の疾患に対する知識や考え方を深めることができるのがこのプログラムの特徴です。基礎疾患を持つ患者さんの対応や術後の全身管理において、医科の疾患についての知識は口腔外科を学んでいく上で大変重要です。医科各科の中で学ぶことのできる当院のプログラムはとても貴重で充実した研修となりました。

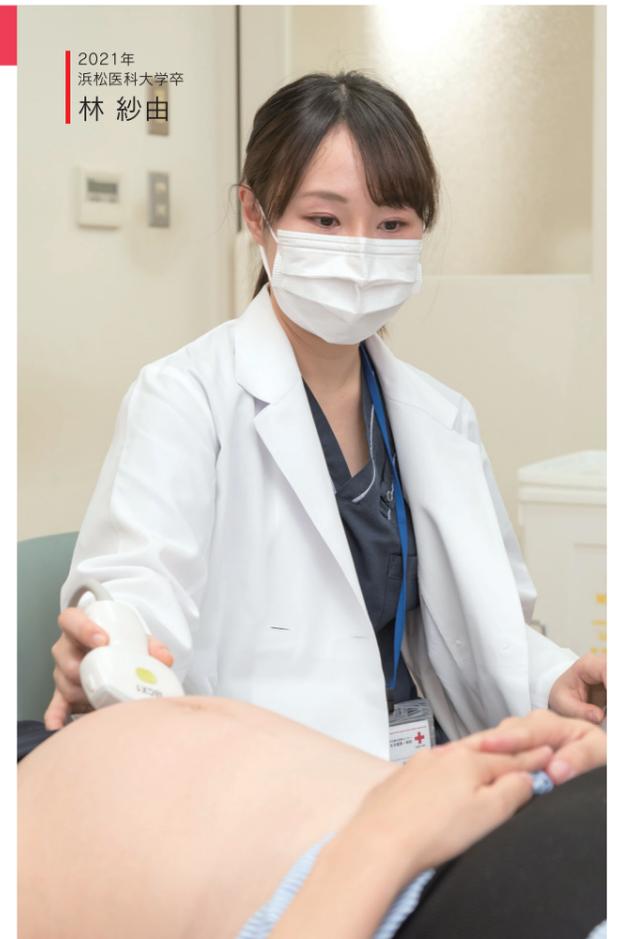


産婦人科プログラム



同じ目標を持つ仲間と、 切磋琢磨できる場所。

産婦人科プログラムでは、2年間の初期研修の中で3ヶ月間、優先的に産婦人科を選択できることが特徴です。他の期間は、一般プログラムと同じように各診療科をローテートし、豊富な症例にふれることでさまざまな経験と幅広い知識を身につけることができます。また当院では、専攻医となる3年目以降にも院内に残る医師が多いため、同じ立場の仲間と相談しやすい環境があることも魅力です。指導体制は手厚く、上級医の先生方も優しく丁寧に教えてくださり、興味のある分野について深く学ぶことができます。



2021年
浜松医科大学卒
林 紗由

Schedule とある研修医の一日

慌ただしい毎日が、いつか自信になる。

幅広い疾患に対する治療を経験できる当院では、研修医としての学びに最適な環境が整っています。ここからは、消化器内科で学ぶ研修医のとある一日をご紹介します。



1 病棟回診

毎日患者さんのものを訪れ、話を聞いたり、身体所見をとることで体調の軽微な変化も見逃さないようにします。患者さんの話を聞き、不安に寄り添うことも重要です。また、輸血の入針や腹水穿刺を行うこともあります。



2 内視鏡検査見学

主に上部・下部内視鏡検査を見学します。実際にカメラを触らせて頂けることもあります。



3 昼食

たいていは院内の職員食堂にて昼食をとります。ローテ科の先生や同期などと一緒に食事をとることが多いです。



4 救急対応

救急外来や初療室にて消化器内科疾患が疑われる患者が来院した際には、上級医とともに診察、検査を行います。



消化器内科での1日



5 モーニングカンファレンス

毎朝各科の先生方が20分ほどのミニレクチャーを行って下さいます。勉強になる症例の紹介や、救急外来での診察・処方などの注意点などの教えて頂くことができ、非常に勉強になります。



6 内視鏡処置介助

ESDやERCP、ポリペクなどの処置の介助を行います。



7 内科医局会

研修医の同期が経験した症例の発表や先生方の講演などを聞きます。また、年に1度自分の内科ローテート中に経験した症例について発表を行います。

1年次ローテート

4月	オリエンテーション・女性泌尿器科	10月	循環器内科・呼吸器内科
5月	整形外科・救急部・産婦人科	11月	呼吸器内科・消化器内科
6月	産婦人科・救急部	12月	消化器内科・麻酔科
7月	検査部・小児科	1月	麻酔科・救急部
8月	小児科・一般消化器外科	2月	地域医療・一般外来研修(新城市民病院)
9月	循環器内科	3月	内科(選択)



献血当番



注射当番

あらゆる経験を重ねて、少しずつ着実に成長していく。

研修医になって大変だと感じたのは、救急外来業務を始めたばかりの頃に受診が連続し、ご飯も食べられないほど忙しかったとき。しかし業務に慣れるにつれ、学生とは違い、自分で必要な検査を考えて治療を行うことにやりがいを感じるようになりました。また、研修中には2つの当番を担当しました。1つは献血当番で、献血バスでの献血前問診業務のために、献血者の体調、服薬歴、既往歴などから献血可否を判断する業務。そしてもう1つは注射当番で、PET検査や骨シンチ検査に必要なルートや、CT室・MRIでの造影に必要なルートは1日中とり続けるという業務でした。現在もまだまだ自分の知識・経験不足を感じることも多いですが、今後も積極的に診療に参加し、一人前の医師として活躍できるよう研鑽を積んでいきたいです。



2022年
自治医科大学卒
奥 祐奈

救急について

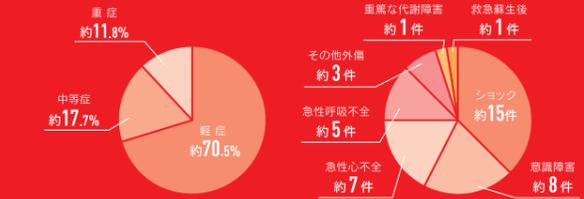
● 救急搬送件数

〈令和2年度〉			〈令和3年度〉		
救急車	時間内	2,078件	救急車	時間内	2,221件
	時間外	5,247件		時間外	5,284件
Walk in	時間内	1,446件	Walk in	時間内	1,624件
	時間外	5,461件		時間外	5,191件

● 経験症例数 (令和元年度～令和3年度平均)

R1で経験できる症例数の平均	約340件	R2で経験できる症例数の平均	約370件
----------------	-------	----------------	-------

(2年間経験できる症例の重症度別割合) (2年間で経験できる三次救急症例数:合計約40件)



勤務体制について

人数	R1→2名 R2→2名 専攻医(3年次)→1名
休日・夜間勤務回数	平均4回/月

救急外来では主にR1がwalk in患者、R2が救急車で搬送された患者の初期対応を行います。当院は三次救急病院であり、軽症～重症まで様々な疾患を持った患者が搬送されます。

通常の外来診察と異なり、より緊迫した雰囲気の中でスピード感を持った対応が求められ、慣れないうちは大変なことも多いですが、相談しやすい年の近い上級医がいるため、困ったときは迷わず相談しながら多くの経験を積み、成長を重ねていってください。

Interview 研修医の本音

医師としての“姿勢”を日々の業務から学ぶ。

研修医として毎日過ごす中で、高め合える同期の存在が助けになりました。当院は多くの専門領域を有するため、私のように研修医が3年目以降も専攻医として残りやすいことも特徴です。気軽に相談できる人が身近にいるので心強いですね。研修では、脳神経外科での研修の際に、初めて執刀医として慢性硬膜下血腫のオペを担当したことが印象

に残っています。また、ERでは三次救急ならではの豊富な症例を経験し、あらゆる疾患への対応を一通り習得できました。さまざまな手技はもちろんのこと、医師として患者さんに向き合う姿勢を指導医の先生に教わり、実りある2年間を過ごすことができました。

2021年
岐阜大学卒
森永 崇文



Schedule とある研修医の一日

たくさんの同期や上級医と過ごす充実の時間。

頼れる先生方がいるのはもちろんのこと、同期の仲間も多く所属する当院では、研修医としての学びに最適な環境が整っています。ここからは、産婦人科で学ぶ研修医のとある一日をご紹介します。



朝会

休日夜間にあつたお産や入院症例、共有事項について産婦人科のスタッフ全体で申し送りがあります。



病棟回診

産後の患者さんの回診を行います。産後に順調な経過をたどっているか確認します。疼痛や貧血、その他のマイナートラブルに対して処方をするのも研修医の仕事です。もちろん、困ったときは上級医の先生が相談に乗ってくれます。



医局

研修医だけで40人近い人数がいます。勉強する人や、研修医同士で会話をしながらリラックスする人など過ごし方は人によって様々です。上級医の先生も研修医を気にかけてくださることが多く、年次の垣根を超えた交流があります。



産婦人科での1日

昼食

昼食は多忙な研修生活の中でホッと一息つくことができる貴重な時間です。職員食堂を利用することが多いですが、日替わりのメニューが毎日楽しめます。



手術

研修医の主な仕事は視野確保ですが、とても重要な仕事です。術中も解剖についてなど、教育熱心な先生が多いです。縫合など手技をさせてもらえることもあります。



診療科カンファレンス

相談が必要な入院患者を全体のカンファレンスで話し合います。研修医が担当している患者をプレゼンすることもあります。



2021年名古屋大学卒
近藤 友宏

専門研修プログラム (基本領域) 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

初期研修(2年間) | 専門研修(3年間) | ●基幹プログラム ●連携プログラム | いずれか

初期臨床研修を修了した研修医の多くは、引き続き当院での専門研修に進みます。当院が基幹プログラムを有する6領域以外では主に名古屋大学医学部附属病院プログラムの連携施設となっており、専門医取得・更新に必要な講習を院内で開催するなど病院全体で専門研修をサポートしています。また、専門医資格取得からSubspecialty領域の専門研修へと連続的な研修が可能となるように配慮しています。



●基幹プログラム		●連携プログラム(令和3年度現在)		●連携プログラム(令和4年11月現在)	
診療科	専攻医	診療科	専攻医	診療科	専攻医
内科	30人	皮膚科	3人	脳神経外科	2人
小児科	13人	精神科	0人	放射線科	1人
外科	7人	整形外科	3人	麻酔科	5人
産婦人科	7人	眼科	0人	形成外科	0人
病理部	1人	耳鼻咽喉科	3人		
救急科	0人	泌尿器科	3人		

Interview 専攻医インタビュー

将来の財産になる、主体的な研修がある。

当院は名古屋西部に位置する三次救急病院であり、救急症例も含め豊富な症例が集まります。現在は内科専攻医として専門研修を行っており、各内科で主治医として症例を受け持つため、主体的に研修に取り組むことができます。指導医はもちろんのこと、学年の近い先生も多く、広い知識を得ることが可能です。今後はさまざまな併存疾患の患者さんを診療する必要があるため、現在の研修は将来の財産になると感じています。当院では救急の初期対応を研修医が主体となって行っています。病歴聴取のあと、検査や治療を実践するまでの一通りの診療も私たち研修医の担当です。救急症例が多く忙しい時もありましたが、同期や先輩・後輩の医師、看護師などと協力して充実した研修を行うことができました。



- #### 役に立ったプログラム
- モーニングカンファレンス
 - チーム活動への参加
 - ICLS(日本救急医学会が開催している蘇生トレーニングコース)など院内での講習会

2020年名古屋大学卒
松浦 彰彦

患者さんに寄り添い、信頼される医師を目指して。

当院の研修医のローテーションの特徴は、自由選択枠が多いことだと思います。そのため、3年目以降の診療科を決定しなければならない2年目の夏の時期に、迷っている診療科や関連のある診療科を選択でき、比較的融通が利きます。私は、3年目以降産婦人科を専攻するので、2年目の選択ローテーションでは関連する麻酔科やNICUを回りました。研修医の仕事は、救急での当直や日直は忙しくて大変なときがあります。その一方で、診察・加療に対して患者さんから感謝されることも多く、やりがいは大きいです。幅広い知識を身につけることはもちろんのこと、患者さんに常に寄り添い、信頼されるような医師を目指していきます。

1年次ローテーション

4月	オリエンテーション 救急部	10月	腎臓内科 泌尿器科
5月	救急部 消化器内科	11月	耳鼻咽喉科 緩和ケア科 麻酔科
6月	消化器内科 小児科	12月	麻酔科 呼吸器外科
7月	小児科・産婦人科	1月	循環器内科
8月	産婦人科	2月	整形外科、 一般・消化器外科
9月	呼吸器内科 腎臓内科	3月	一般・消化器外科

2年次ローテーション

4月	一般・消化器外科 脳神経内科	10月	救急部 内分泌内科
5月	脳神経内科 産婦人科	11月	精神科研修 (愛知県精神医療センター) 精神科
6月	呼吸器内科 病理部	12月	NICU 麻酔科
7月	外部研修 (高山赤十字病院)	1月	麻酔科 産婦人科
8月	ICU 地域医療・ 一般外来研修 (細川外科クリニック)	2月	産婦人科
9月	救急部	3月	救急部



2022年
名古屋大学卒
川瀬 璃苑

Training System 充実の研修制度

叶えたい未来を切り開き、自分を成長させる。

— 当院を選んだ決め手は？

川瀬: 学生の頃からある程度は志望する診療科を決めていましたが、多くの診療科で研修ができることは大変魅力的だと思い、選びました。

— 入職前後の病院の印象の違い、入職後に気づいた魅力について教えてください

川瀬: 入職前後でそこまで印象が変わらないというのも魅力の一つかもしれません。想像以上に自由度が高く、充実した研修生活を送れています。

— 名古屋第一病院で研修医として働くことの良さについて教えてください

川瀬: 当院は職員数が多いため、指導体制が充実しています。希望する指導医の先生に相談などができるメンター制度があるのもいいところです。

— 初期研修終了後の進路や、将来の目標を教えてください

川瀬: 子どもの頃から、手技を行う医師になる夢があり、現在は外科系を志望しています。初期研修後も当院での専門研修を続けようと考えています。

— プライベートの過ごし方を教えてください

川瀬: 仕事のあとは家でゆっくり過ごすことが多いです。休日は同期と一緒に、山梨や兵庫など同期の地元を旅行するのにハマっています。

— 最後に、医学生へのメッセージをお願いします

川瀬: 当院の研修では各診療科で知識と興味を与えてくれますし、視野を広げるという意味でも大変充実しています。ぜひ見学にいらしてください。



— 小児科を選んだ理由は？

竹田: 研修の際に子どもたちが元気になっていく姿を見て、将来を担う若い人たちの医療に携わりたいと強く思い、選びました。

— 2年間の研修医生活で印象に残っている出来事は？

竹田: 診療科に関係なくいろんな先生方に助けていただいたことを覚えています。大変なこともありましたが、楽しい研修医生活でした。

— 成功談と失敗談、それぞれお聞かせください

竹田: 救急分野の研修のときにキャパオーバーしてしまったのが失敗談です。そこから気をつけるようになり、見逃しやミスが減ったのが成功談です。

— 当院には全国各地から男女問わず研修医が集まっていますよね

竹田: いろんな診療科を経験できるというのが魅力的なのではないでしょうか。研修医の人数が多いので、切磋琢磨できる環境もあります。

— 当院のプログラムの魅力を教えてください

竹田: 私が受けた小児科プログラムでは、2年目にNICU、一般小児科、血液腫瘍科と幅広く経験できるのがいいところだと思います。

— 最後に、医学生へのメッセージをお願いします

竹田: 病院説明会や見学会などを行っていますので、ぜひ一度いらしてください。病院や働くスタッフの雰囲気を肌で感じることができるとと思います。



2021年
藤田医科大学卒
竹田 早織

● 手厚い指導体制

在籍する
指導医数

127名

多彩な診療科が揃う当院には、多くの指導医が在席し、手厚い指導を受けることができます。

● 指導医の人数

小児科	18名	歯科口腔外科	4名	内分泌内科	2名	形成外科	1名
麻酔科	10名	血液内科	4名	脳神経内科	2名	緩和ケア科	1名
産婦人科	9名	脳神経外科	4名	血管外科	2名	小児外科	1名
一般・消化器外科	8名	循環器内科	4名	心臓血管外科	2名	皮膚科	1名
整形外科・リハビリテーション科	7名	呼吸器外科	4名	腎臓内科	2名	眼科	1名
消化器内科	7名	耳鼻咽喉科	3名	女性泌尿器科	2名	化学療法内科	1名
放射線科	6名	乳腺外科	3名	病理部	2名	健診部	1名
呼吸器内科	5名	精神科	3名	救急部	2名	検査部	1名
		泌尿器科	3名	総合診療科	1名		

● メンター制度



指導医がメンターとなり、定期的な面談を通して研修の進捗状況や進路選択について助言を行い、研修生活をサポートします。メンターとなる医師は研修医自身で選択することができます。

● 研修医の男女比

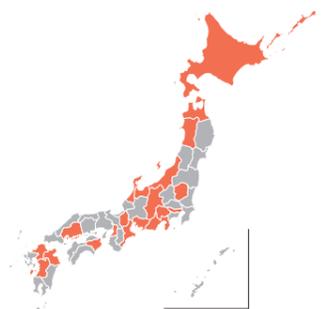


(2018年度～2022年度在籍者数より算出)

当院では研修医の男女比に大差なく、男女ともに多くの先輩や同期と出会える環境です。

● 研修医の出身大学 (2018年度～2022年度実績)

北海道 北海道大学	関東甲信越 順天堂大学 昭和大学 東海大学 自治医科大学 新潟大学 山梨大学 信州大学	北陸 富山大学 金沢医科大学	関西 滋賀医科大学 大阪医科大学
東北 弘前大学 秋田大学		中部 岐阜大学 浜松医科大学 名古屋大学 名古屋市立大学 藤田医科大学 愛知医科大学 愛知学院大学 三重大学	中国・四国 広島大学 徳島大学
			九州・沖縄 九州大学 九州歯科大学 福岡大学 熊本大学 大分大学



Program 年間スケジュール

豊富なプログラムで、自分を高める2年間

当院では日々の研修に加え豊富な勉強会を用意し、充実した学びの場を整えています。豊富なプログラムを通して有意義な2年間を過ごし、進む道をじっくり見極めてください。

4月	6月
1日・2日 新入職員オリエンテーション 5~9日 研修医オリエンテーション 16日 オリエンティング 23日 CPC 「心筋梗塞」[CPCについて] 内科・病理部	4日 コアレクチャー「眼科について」 眼科 佐藤 英洋子 11日 コアレクチャー 「腹部エコー①」 消化器内科 尾形 肇 11日 第2回「今日から始める輸液栄養勉強会」 「経管栄養中の消化器症状への対応」 栄養サポートチーム、大塚製薬工場 14日 第1回NST勉強会 「経管栄養中の消化器症状への対応」 栄養サポートチーム、Nestle 18日 コアレクチャー 「死亡診断書の記載の仕方」 救急部 花木 芳洋 20日 第84回 ICLSなかむら 21日 第1回RST勉強会 「酸素療法の基本とデバイス」 呼吸器内科 横山 俊彦 25日 CPC「臍血、肺炎スベルギルス症、 甲状腺グリーゼ」 内科・病理部
24・25日 第82回/83回 ICLSなかむら 30日 コアレクチャー 「抗菌薬適性使用」 ICT 岡山 廣樹、横山 俊彦、西山 秀樹	28~7/30日 令和3年度第1回医療安全研修会 医療安全推進室 28~7/30日 令和3年度第1回感染対策研修会 感染対策委員会



5月	8月
7日 コアレクチャー 「心電図でわかること」 循環器内科 富田 紳治朗 14日 コアレクチャー 「Covid-19について」 呼吸器内科 伊藤 亮太 14・18日 第1回「今日から始める輸液栄養勉強会」 「体液の基本と水電解質輸液使い分けポイント」 (株)大塚製薬工場 18~21日 N95マスク フィットテスト ICT 高坂 久美子 21日 コアレクチャー 「空気感染防止対策研修」 ICT 高坂 久美子 28日 CPC「心筋梗塞」 循環器内科・病理部	6日 コアレクチャー 「皮膚科について」 皮膚科 吉川 真人 10日 第3回RST勉強会 「人工呼吸器グラフィックモニタ、人工呼吸器のトラブルシューティング」 呼吸器・モニター管理チーム 13日 コアレクチャー 「低血糖・インスリンについて」 内分泌内科 太田 美穂子 20日 コアレクチャー 「ちやんとできて、外傷診療」 徳田医科大学病院 救急総合内科 教授 渡瀬 龍人先生 27日 CPC「急性肺炎」 呼吸器内科・病理部



9月	11月
3日 コアレクチャー 「楽しく学ぶ、攻める問診」 福島県立医科大学 金津医療センター 山中 克郎教授 10日 コアレクチャー 「がんゲノム医療について」 化学療法内科 中野 祐佳 14日 第4回RST勉強会 「呼吸音の聴取について」 呼吸器・モニター管理チーム 17日 コアレクチャー「CVについて」 血液内科 江口 基紀 24日 CPC「脳腫瘍、髄膜炎」 脳神経内科・病理部 30日 第1回認知症の基礎講座 認知症ケアチーム 30日 技術研修	1~12/3日 令和3年度第2回医療安全研修会 医療安全推進室 1~12/3日 令和3年度第2回感染対策研修会 感染対策委員会 5日 コアレクチャー「腎疾患について」 腎臓内科 遠藤 信英 9日 第6回RST勉強会 「呼吸リハビリ(講義)」 呼吸器・モニター管理チーム 12日 コアレクチャー 「インフルエンザ感染対策」 ICT(呼吸Dr 横山、薬剤部 岡山、検査部 西山) 19日 コアレクチャー 「災害医療・災害救護②」 救急部 花木 芳洋 26日 CPC「多発性骨髄腫」 血液内科・病理部



10月	12月
1日 技術研修 1日 コアレクチャー「産業界について」 産業界(呼吸器外科) 川角 佑太 8日 コアレクチャー 「研修医のための漢方勉強会」 株式会社ツムラ 15日 コアレクチャー 「災害医療・災害救護①」 救急部 花木 芳洋 19日 第5回RST勉強会 「人工呼吸器装着中の看護、VAP予防と口腔ケア」 呼吸器・モニター管理チーム 21日 第2回認知症の基礎講座 認知症ケアチーム 22日 CPC「急性骨髄性白血病」 血液内科・病理部 29日 コアレクチャー 「当院の化学療法について」 薬剤部 橋本 秀之	2日 大規模地震時医療救護活動訓練 3日 コアレクチャー 「口腔顔面病変・外傷への対応」 口腔外科 大岩 伊知郎 7日 第7回RST勉強会 「NPPVとV60」 呼吸器・モニター管理チーム 10日 コアレクチャー 「保険診療について」 内分泌内科 尾崎 信雄 17日 コアレクチャー 「医療安全について」 一般消化器外科 永井 英雅 24日 CPC「CPFE、CO2ナルコース」 呼吸器内科・病理部

1月	2月	3月
7日 餅つき大会 14日 コアレクチャー 「不明熱の診断学、総合診療について」 名古屋第二病院 第一総合内科部長 横江 正満先生 21日 コアレクチャー 「小児の抗菌薬適性使用」 小児科 吉田 奈央 28日 CPC「肺出血、腎不全」 呼吸器内科・病理部	4日 コアレクチャー「服毒の対応」 消化器内科 藤吉 俊尚 18日 コアレクチャー「経腸栄養剤」 (株)大塚製薬工場 25日 CPC「肺血症、水疱型多型紅斑、 多臓器不全」 血液内科・病理部	4日 コアレクチャー 「健康診断とがん診断」 腫瘍部 渡瀬 保子 11日 コアレクチャー 「皮膚総合実習」 形成外科 林 祐司 18日 コアレクチャー 「脳神経所見の取り方」 脳神経内科 後藤 洋二 25日 CPC「肺炎」 呼吸器内科・病理部

主なプログラム

平日毎朝開催 モーニングカンファレンス



●週間予定表(2022年度実績)

	月	火	水	木	金
第1週目	救急部	泌尿器科	放射線科	一般・消化器外科	呼吸器内科
第2週目	救急部	脳神経内科	小児科	総合診療科	消化器内科
第3週目	救急部	整形外科	循環器内科	消化器内科	脳神経外科
第4週目	救急部	産婦人科	小児科	循環器内科	脳神経内科
第5週目	救急部	※	※	※	※

救急外来で経験する症例について、各診療科の医師が講義を行っています。
※下記講義などを予定
予防接種、接種前問診について 遠影製薬 薬師の禁忌情報
腎臓内科...年3回を予定 内分泌内科...年約2~3回を予定
血液内科...年約2~3回を予定
薬学部(薬剤製薬照会)...年3回(6月、11月、3月頃)を予定
R1による症例共有

毎週金曜日開催 コアレクチャー



年1回開催 技術研修



当院の職員や外部講師を招聘しての勉強会を1時間ほど開催しています。
※毎月第4金曜日は副検疫例について研修医が副検所見を発表し指導を受けるCPCが行われます。

- CVカテーテル挿入
- 胸腔ドレナージ
- 骨髄内輸液
- 腰椎穿刺
- ワークショップ
- 皮膚縫合
- シナリオシミュレーション

年1回開催 大規模災害訓練



年1回開催 もちつき大会



Interview 研修医の本音



学び続けられる環境が、自分を成長させてくれる。

2022年 岐阜大学卒 山本 満里奈
学習の機会に恵まれていることが、当院の研修医の魅力だと思います。各科先生方のご尽力で、平日の朝と金曜日の17時から勉強会が開催されており、知識を体系的に習得できるため勉強の指標になりました。研修医生活で印象に残っているのは、外科ローテート中、担当患者さんから「先生が会いに来てくれるのをいつも楽しみにしているよ」と言われたこと。研修医として大事な仕事は、毎日患者さんのもとを訪れ寄り添うことかもしれないと実感しました。



Message 指導医からのメッセージ



情熱をもった指導医のもと、じっくりと学ぶことができる。

第三小児科部長 福見 大地
当院では20名程度の研修医たちが、整備されたシステムとプログラム、情熱をもった指導医のもと、時には厳しく、時には楽しく研修しています。毎朝のミニレクチャーや各種カンファレンスなど交流の機会に恵まれ、多職種と連携しながら診療を行っているため、コミュニケーション能力も鍛えられます。総合診療を初期から学びたい方、ワーキングバランスにも注目している方、じっくり志望先を選びたい方。志を胸に、私たちと一緒に学びませんか。

Facility

充実の環境で、満ち足りた研修生活を。

